

症例 1



外科診療 症例紹介



膝蓋骨内包脱臼（パテラ）Grade IV チワワ / 8歳 避妊メス

主訴

以前からパテラ Grade II を認めていたが破行などの異常は無く元気に生活していた。急に、右後肢の挙上と痛みで当院を受診。身体検査上、右後肢のパテラ Grade IV と左後肢のパテラ Grade II を認めた。

検査

身体検査およびレントゲン検査を行ったところ、右膝の膝蓋骨（お皿の骨）が本来の位置からずれてしまう「膝蓋骨内包脱臼」と診断しました。膝蓋骨脱臼は小型犬に多い病気ですが、年齢とともに症状が悪化したり、関節炎を併発して痛みが強くなることがあります。今後、症状の再発や悪化の可能性が考えられたため手術を行いました。

診断：右膝蓋骨内包脱臼 Grade IV

治療 手術

実施した術式は以下の2つを組み合わせた方法です。

●ラテラルスーチャー法

膝のお皿が外れにくくなるよう、関節の安定性を高める方法

●滑車形成術

膝蓋骨がはまる溝を深くし、正しい位置に安定して収まるようにする手術

術後

1～2週間ほど包帯で手術した足を保護をしながら自宅で安静に生活。自宅で軽度のリハビリも実施。包帯をとった後も、経過良好で右後肢のパテラは認められておりません。現在は、破行などもなく元気に過ごしています。

術前

術後

右



膝蓋骨脱臼は、

●片足を挙げる ●スキップするような歩き方 ●座り方がおかしい

といったささいな歩行異常が最初のサインになることが多い病気です。

症状が軽いうちは内科的管理で様子を見ることもありますが、進行すると関節炎や靱帯損傷を併発し、治療がより大がかりになる場合もあります。「ちょっと歩き方が変かも？」と感じた段階でご相談いただくことで、より良い治療選択ができる可能性が高くなります。気になる症状がありましたら、お早めにご相談ください。